

”議会・議員の役割り” 益々重要な時

練馬区議会議員 小又恒男

政治不信が増幅しています。マスコミはいわゆる無党派層が増大していることをことさらのように報道していることはご承知の通りです。

こうして一方では政治不信と政治に対する期待感が弱まっていますが、しかし、他方では政治課題が山積しています。少子高齢社会の福祉、行政改革・財政再建問題、地球規模の環境問題、21世紀社会を展望した政治・経済・社会のあり方などです。まさに総合的に問題をとらえ、そして具体的にそれぞれの課題について方針を明らかにして行く必要があります。このことは3300自治体でも同じことであると思います。

このように今日、政治の課題は大変重要です。大きな大きな変革の時代に入っているとの認識が必要です。幕末から明治、今次戦争から戦後、この二つに次ぐ変革、改革の時代であると思っています。時代状況は、このように大変な時です。重大な時期ではあるにもかかわらず、国民の政治意識、政治に対する関心は冒頭指摘した通りです。それでは今、何が必要であるかといえば各級議会議員の役割り、リーダーシップだと言うことです。

中央にあっては民主党がその役割りを存分に発揮しなければなりません。政・財・官の癒着を断ち切る、情報公開制度の確立、官から民の政治移行など実現することから政治の信頼を回復し、山積する課題にも立ち向って行くことが出来ます。

同時に、地方議会においても私たちは重責を担っています。区民からの請願・陳情の扱い、首長からの議案・報告事項など、公開の場で堂々と論議し、メリハリのきいた結果を出すことです。所が実情はこれとは逆と言ってもいい傾向にあります。一つは

審議の先送り、先送りが多く、問題解決に中々にならないこともあり、もう一つは言行不一致、責任感の欠如が横行していることです。

言論の府が泣くというものです。議会だからこそオープンな場で区民に分かり易い論議をして、結論を出すことです。都議会は陳情などは理事会で実質結論を出し、公開の委員会の場合はトンネル機関化しているとのことです。これでは都民に議会の姿が見えないことになります。民主社会は行政も議会も大原則公開でなければなりません。

練馬区・議会は三月、区長、議員などの報酬を昨年の四月にさかのぼって引き上げることを多数で決定しました。誠にけしからん話です。私たち「未来・民主」の三人—小又恒男、沖山一雄、和田真保はこれに反対しました。しかし、公選法は受領返上でも違法になるとのことのため、区外の三団体に引き上げ分を寄付しました。問題は共産党など同じく反対した議員たちの取った言動です。ある党の議員は「決まった以上は、民主主義のルールだから受領してもおかしくない」といいました。おかしいことです。私の二十数年の議会経験で共産党はその都度、引き上げに反対していますが、受領を断った話を聞いたことはありません。もちろん今回もです。

こうした言行不一致、無責任さは沢山あります。区民はこうしたことをよしとするでしょうか。私は賛成するも、反対するも自由ですが、自分のとった言動には責任がともなうと言うことが今日重要であることを強調したいのです。ケジメが重要です。小さなことのようにですが、こうした具体的なことを通して、政治不信解消のために議会、議員が役割りを果たす時です。

会費納入のお願い

会報送信用封筒に記された「更新日」の右の「未」の方は「会費未納入」ですので、出来るだけ早く会費の納入をお願いします。

また、新規入会大歓迎です。知人・友人へのご入会の勧誘をよろしくお願いします。

年会費 3,000円

郵便口座番号 00190-5-252552

振込口座名称「平成維新を実現する都民の会」

【お詫びと訂正】生活者通信5月号P. 5「平成維新東京・運営細則」7項1. 最後の3行「各会議の議事は・・・決するところに従う。」は、訂正ミスとなっていますので、お詫びし、削除させていただきます。